



ワークフローの実行

この章は、次の項で構成されています。

- [ワークフローの実行, 1 ページ](#)
- [ワークフローの実行, 2 ページ](#)
- [例：ワークフローの実行, 3 ページ](#)
- [ワークフロー トリガーの作成, 3 ページ](#)
- [例：ワークフローを実行するトリガーの作成, 7 ページ](#)
- [サービス リクエストのスケジュール設定, 11 ページ](#)
- [例：ワークフロー実行のスケジュール設定, 13 ページ](#)
- [VM アクション ポリシーの使用, 14 ページ](#)

ワークフローの実行

ワークフローを実行すると、サービス リクエストが作成されます。ワークフローは直接実行することも、後で実行されるようにスケジュールすることもできます。あるいは、特定の条件を満たした時点でワークフローを実行するためのトリガーを作成することもできます。また、VM でワークフローを実行する際のポリシーを作成できます。

以下に、これらのオプションのそれぞれについて簡単に説明します。

- ワークフローを直接実行する：選択したワークフローを直ちに実行できます。[ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] > [ワークフロー (Workflows)] に移動するか、[ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] を開き、[今すぐ実行 (Execute Now)] を選択します。
- 後で実行されるようにサービス リクエストをスケジュールする：選択したワークフローの実行をスケジュールできます。[ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] > [ワークフロー (Workflows)] に移動して、[スケジュール (Schedule)] を選択します。

- 条件付きワークフローの実行をトリガーする：一連の条件を満たす場合にワークフローを実行するトリガーを作成できます。[ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] > [ワークフロー (Workflows)] に移動して、[トリガー (Triggers)] を選択します。
- アクションポリシーを作成する：仮想データセンター (vDC) 内の VM でワークフローを実行するためのポリシーを作成できます。[ポリシー (Policies)] > [オーケストレーション (Orchestration)] > [ワークフロー (Workflows)] に移動して [ユーザの VM アクション ポリシー (User VM Action Policy)] を選択し、ポリシーを仮想データセンター (vDC) に追加します。

以降のセクションで、詳しい手順と例を記載します。

ワークフローの実行

[ワークフロー (Workflows)] ページまたは [ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] から、ワークフローを直ちに実行することができます。

-
- ステップ 1** [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。
 - ステップ 2** [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[ワークフロー (Workflows)] をクリックします。
 - ステップ 3** [ワークフロー (Workflows)] ページで、実行するワークフローに移動して選択します (ワークフローはディレクトリ内またはサブディレクトリ内にあります)。必要に応じて、[ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] をクリックし、[ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] でワークフローを開きます。
 - ステップ 4** [ワークフローの実行 (Execute Workflow)] をクリックします。
(注) [ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] を使用している場合、[ワークフローの実行 (Execute Workflow)] はウィンドウの右上の近くにあります。
 - ステップ 5** [実行するワークフロー (Executing Workflow)] 画面で、実行するワークフローのバージョンを選択します。
 - ステップ 6** また、[実行するワークフロー (Executing Workflow)] 画面で、ワークフローのユーザ入力フィールドに入力します。
入力フィールドに、ユーザとして変更することが許可されているワークフローの入力が表示されます。
入力が必須であり、デフォルトの入力値がない場合は、ユーザが値を入力する必要があります。
(注) ワークフローの入力は、実行時にオーバーライドできない値 (管理入力) が定義されている場合もあります。管理入力は、[実行するワークフロー (Executing Workflow)] ダイアログボックスに表示されません。
 - ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。
[サービス リクエストの送信ステータス (Service Request Submit Status)] 画面が表示されます。
-

次の作業

[サービス リクエストの送信ステータス (Service Request Submit Status)] 画面の [詳細ステータスの表示 (Show Detail Status)] をクリックすると、サービス リクエストの進捗状況を確認できます。

例：ワークフローの実行

この例では、ワークフローを直接実行する方法を説明します。

はじめる前に

[例：ワークフローの作成](#)の説明に従ってサンプル ワークフローを作成します。

-
- ステップ 1 [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。
 - ステップ 2 [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[ワークフロー (Workflows)] をクリックします。
 - ステップ 3 [例：ワークフローの作成](#)で作成した PowerCycleVM ワークフローを探して選択します。
 - ステップ 4 [ワークフローの実行 (Executing Workflow)] 画面で、[送信 (Submit)] をクリックします。
 - ステップ 5 [サービス リクエストの送信ステータス (Service Request Submit Status)] 画面で、[詳細ステータスの表示 (Show Detail Status)] をクリックします。
 - ステップ 6 [サービス リクエスト (Service Request)] 画面で、[ワークフロー ステータス (Workflow Status)] をクリックします。
ステータス ページに、サービス リクエストの進行状況を示すグラフが表示されます。
 - ステップ 7 サービス リクエストのログを表示するには、[ログ (Log)] をクリックします。
(注) ログに対する最新の更新を表示するには、[更新 (Refresh)] をクリックします。
-

次の作業

[ワークフロー ステータス (Workflow Status)] をクリックして、[リクエスト ID (Request ID)] に示されている値を記録します。この ID によって、サービス リクエストのステータスをいつでも確認できます。[サービス リクエストの表示](#)を参照してください。

[閉じる (Close)] をクリックして、[サービス リクエスト (Service Request)] 画面を閉じます。

ワークフロー トリガーの作成

特定の条件が満たされた時点でワークフローを実行するためのトリガーを定義できます。条件には、一般にさまざまなシステム コンポーネントの状態が使用されます。トリガーを有効にすると、Cisco UCS Director はシステム状態をモニタし、トリガーの条件が満たされた時点でユーザ指定のワークフローを実行します。

ワークフロー トリガーを作成するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。
- ステップ 2** [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[トリガー (Triggers)] をクリックします。
- ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [トリガーの追加 (Add Trigger)] の [トリガー情報 (Trigger Information)] 画面で、次のフィールドに入力します。

| 名前 | 説明 |
|----------------------|--|
| トリガー名 (Trigger Name) | トリガーの一意の名前。 |
| 有効 (Is Enabled) | トリガーを有効にします。(トリガーを作成して保存し、後で有効にすることもできます)。 |
| 説明 | トリガーの説明。 |
| 頻度 (Frequency) | トリガー ルールのチェック間隔。この時間間隔は、3 分から 1 か月までの範囲で選択できます。 (注) 内部的に、Cisco UCS Director は 2 分ごとにトリガーをポーリングします。したがって、実際の期間は指定された時間より最大 2 分長くなる場合があります。これはトリガー期間が短い場合に重要になることがあります。 たとえば、[頻度 (Frequency)] を 3 分に設定すると、トリガー条件が満たされてから最大 $3 + 2 = 5$ 分後にトリガーがアクティブになることがあります。 |

| 名前 | 説明 |
|----------------------------|---|
| [トリガー タイプ (Trigger Type)] | <p>トリガー タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ステートフル (Stateful)] : 最後のトリガー状態が記録され、トリガーの状態が変わるとアクションが実行されます (トリガー状態は、トリガー条件が満たされると [アクティブ (Active)] になります。それ以外の場合は [クリア (Clear)] です)。両方のトリガー状態の遷移に対してワークフローを選択します。つまり、トリガー状態が [アクティブ (Active)] から [クリア (Clear)] に変わった場合のワークフローと、 [クリア (Clear)] から [アクティブ (Active)] に変わった場合のワークフローを選択します。トリガー状態は、 [頻度 (Frequency)] ドロップダウンリストで指定された頻度でチェックされます。 • [ステートレス (Stateless)] : [頻度 (Frequency)] ドロップダウンリストで指定された頻度でトリガーがチェックされ、その条件が満たされると常にトリガーが実行されます。 |

トリガーされたサービスリクエストの実行中、同じトリガーによる追加の要求は無視されます。トリガーされたサービス リクエストが完了した後でのみ、 [頻度 (Frequency)] パラメータで定義されている次のポーリング イベントが別のサービス リクエストをトリガーします。

たとえば、ステートフルトリガー T の [頻度 (Frequency)] パラメータは 5 分です。T は時刻 13:00 にパラメータ P をポーリングし、P がトリガー基準を満たしていることを確認するので、T は 8 分間実行されるサービス リクエスト SR の実行を行います。13:05 に、T が再びポーリングを行いますが、SR がまだ実行中のため、P の状態に関係なく、T は別のサービス リクエストを実行しません。13:08 に SR が終了します。T は、13:10 に再びポーリングを行うときに、P の基準が満たされていれば新しいサービス リクエストを実行します。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 トリガー条件を指定します。

- a) [トリガーの追加 (Add Trigger)] の [条件の指定 (Specify Conditions)] 画面で、次の操作を実行します。
 - [条件 (Conditions)] リストを展開します。
- b) [モニタするエントリの追加 (Add Entry to Monitor)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

| 名前 | 説明 |
|--|--|
| モニタ対象のオブジェクトのタイプ (Type of Object to Monitor) | この条件でモニタするオブジェクトのタイプを選択します。 |
| オブジェクト | モニタする特定のオブジェクトを選択します。このリストのエントリは、オブジェクトのタイプによって異なります。オブジェクトをフィルタリングするために、追加情報 (ポッドなど) を指定しなければならない場合もあります。 |
| パラメータ | モニタする動作パラメータを選択します。このリストのエントリはオブジェクトによって異なります。 |
| 操作 | トリガーの比較のリレーショナル操作を選択します。このリストのエントリは、有効なパラメータの状態によって異なります。 |
| 値 | パラメータの比較に使用する値を選択します。[パラメータ (Parameter)]、[操作 (Operation)]、[値 (Value)] で定義された関係に該当する場合、トリガー状態は [アクティブ (Active)] になります。それ以外の場合は、[クリア (Clear)] です。 |

- c) [送信 (Submit)] をクリックします。
- d) トリガーの条件を追加するには、上記の 2 つのステップを繰り返します。
- e) [トリガーの適用条件 (Trigger When)] ドロップダウンリストで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [すべての条件を満たす (All Condition(s) Satisfied)] : トリガー条件のすべてを満たす場合にのみ、トリガー状態が適用されるようにするには、このオプションを選択します。
 - [いずれかの条件を満たす (Any Condition(s) Satisfied)] : トリガー条件を 1 つでも満たす場合に、トリガー条件が適用されるようにするには、このオプションを選択します。

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 [トリガーの追加 (Add Trigger)] の [ワークフローの指定 (Specify Workflow)] 画面で、トリガーで実行する 1 つ以上のワークフローを選択します。

- a) [トリガーの状態がアクティブになったとき (When Trigger State Becomes Active)] の [ワークフローの選択 (Select Workflow)] ドロップダウンリストから、ワークフローを選択します。選択したワークフローは以下のように実行されます。

- トリガーがステートレスの場合は、（[頻度（Frequency）]ドロップダウンリストで指定された頻度でチェックされて）トリガー状態が[アクティブ（Active）]になるたびにワークフローが実行されます。
- トリガーがステートフルの場合は、（[頻度（Frequency）]ドロップダウンリストで指定された頻度で）最後にチェックされてから、トリガー状態が[クリア（Clear）]から[アクティブ（Active）]に変わった場合にのみ、ワークフローが実行されます。

b) トリガーのタイプをステートレスとして選択した場合、[トリガーの状態がアクティブになったとき（When Trigger State Becomes Active）]の[ワークフローの選択（Select Workflow）]ドロップダウンリストからワークフローを選択します。このワークフローは、（[頻度（Frequency）]ドロップダウンリストで指定された頻度で）最後にチェックされてから、トリガー状態が[アクティブ（Active）]から[クリア（Clear）]に変わった場合にのみ実行されます。

ステップ 9 [次へ（Next）]をクリックします。

ステップ 10 [トリガーの追加（Add Trigger）]の[ワークフロー入力の指定（Specify Workflow Inputs）]画面で、ワークフローに必要なすべての入力と、必要なオプション入力を入力します。

（注） ワークフローで必要となるすべての入力を入力する必要があります。トリガーが適用されるワークフローには、ユーザが入力することはできません。

ステップ 11 [送信（Submit）]をクリックします。

次の作業

[ポリシー（Policies）]>[オーケストレーション（Orchestration）]>[トリガー（Triggers）]画面でトリガーを選択し、[有効（Is Enabled）]のオン/オフを切り替えることで、トリガーを有効または無効にすることができます。

例：ワークフローを実行するトリガーの作成

この例では、一連の条件が満たされるとワークフローを実行するためのトリガーを作成する方法を説明します。

ステップ 1 次のように、1つのタスクだけが含まれるワークフローを作成します。

a) 次の表の説明に従って、ワークフローを作成します。

| 名前 | 説明 |
|------------------------|---------------------------------|
| ワークフロー名（Workflow Name） | VM 電源イベントの通知と入力します。 |
| 説明（Description） | VM の電源状態が変化したときに電子メールを送信と入力します。 |

| 名前 | 説明 |
|----------------------------------|--|
| ワークフロー コンテキスト (Workflow Context) | [任意 (Any)] を選択します。 |
| フォルダの選択 (Select Folder) | [サンプル オーケストレーション (Orchestration Examples)] を選択します。 |

b) 次の表の説明に従って、入力を作成します。

| 名前 | 説明 |
|---------------------------|---------------------------------------|
| 入力ラベル (Input Label) | 管理 E メールと入力します。 |
| 入力の説明 (Input Description) | 電源イベント通知の送信先 E メールアドレスと入力します。 |
| オプション (Optional) | オフのままにします。 |
| 入力タイプ (Input Type) | [<i>email_address_list</i>] を選択します。 |
| 値の制限 (Value Restrictions) | [管理者の入力値 (Admin Input)] はオンにしないでください。 |

c) 任意のユーザ出力を定義します。

d) [ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] で、[メールの送信 (Send Email)] タスクをワークフローに追加します。

e) 次の表の説明に従って、タスク情報を入力します。

| 名前 | 説明 |
|--|--|
| [タスク情報 (Task Information)] 画面 | |
| タスク名 (Task Name) | <i>VMPowerEventEmail</i> と入力します。 |
| [ユーザ入力マッピング (User Input Mapping)] 画面 | |
| 電子メールアドレス (必須) (Email Addresses (Mandatory)) | [ユーザ入力にマッピング (Map to User Input)] をオンにします。 |
| [タスク入力 (Task Inputs)] 画面 | |
| 件名 (Subject) | 通知メールの件名です。VM 電源イベントの通知と入力します。 |

| 名前 | 説明 |
|---------------------------|--|
| 本文 (Body) | 通知メールの本文です。次のいずれかの VM で電源オンまたは電源オフ イベントがありました: (VMPowerCycle ワークフローに含まれる VM のリスト) と入力します。 |
| 値の制限 (Value Restrictions) | [管理者の入力値 (Admin Input)] はオンにしないでください。 |

- f) [ユーザ出力マッピング (User Output Mapping)] ページでは、出力をマッピングしないでください。
- g) ワークフローを検証してから、[ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)] を終了します。

ステップ 2 [トリガー (Triggers)] をクリックします。

ステップ 3 [追加 (Add)] を選択します。

ステップ 4 [トリガー情報 (Trigger Information)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

| 名前 | 説明 |
|---------------------------|---|
| トリガー名 (Trigger Name) | VMPowerEvent と入力します。 |
| 有効 (Is Enabled) | このチェックボックスはオンのままにします。 |
| 説明 (Description) | モニタ対象の VM で電源オンまたは電源オフ イベントが発生した場合、VMPowerEventEmail を実行と入力します。 |
| 頻度 (Frequency) | トリガーをテストするために、ポーリング間隔を短くしてください。[3分 (3 minutes)] を選択します。 |
| [トリガー タイプ (Trigger Type)] | [ステートフル (Stateful)] を選択します。これにより、ポーリング間隔中に状態が変化すると、トリガーが起動されます。 |

ステップ 5 [条件を指定します (Specify Conditions)] 画面で、いくつかの条件を追加します。

- a) [条件 (Conditions)] リストを展開し、次の値を使用して条件を追加します。

| 名前 | 説明 |
|--|-------------------|
| モニタ対象のオブジェクトのタイプ (Type of Object to Monitor) | [VM] を選択します。 |
| オブジェクト (Object) | モニタ対象の VM を選択します。 |

| 名前 | 説明 |
|-------------------|----------------------------------|
| パラメータ (Parameter) | [電源ステータス (Power Status)] を選択します。 |
| 操作 (Operation) | [等しい (Equals)] を選択します。 |
| 値 (Value) | [オン (ON)] を選択します。 |

- b) モニタ対象の VM を追加するには、最後のステップを繰り返します。各 VM には、それぞれ独自の条件があります。
- c) [トリガーの適用条件 (Trigger When)] ドロップダウンリストで、[いずれかの条件を満たす (Any Condition(s) Satisfied)] を選択します。

ステップ 6 [ワークフローを指定します (Specify Workflow)] 画面で、次の値を使用してフィールドに入力します。

| 名前 | 説明 |
|--|--|
| 最大呼び出し数 (Maximum Invocations) | デモの場合は [20] を選択します。実稼働環境のアプリケーションでは、[無制限 (Unlimited)] を選択することを推奨します。 |
| トリガー状態がアクティブになったとき (When Trigger State Becomes Active) | [ワークフローの選択 (Select Workflow)] ドロップダウンリストで、[VMPowerEventNotify] を選択します。このトリガーは、[条件を指定します (Specify Conditions)] ページで定義されているように、モニタ対象の VM のいずれかが [オフ (OFF)] から [オン (ON)] に変化するとワークフローを実行します。 (注) ドロップダウンリストには、順番に割り当てられた ID 番号順に項目が表示されます。したがって、ワークフローはリストの一番下にあります。 |
| トリガー状態がクリアになったとき (When Trigger State Becomes Clear) | [ワークフローの選択 (Select Workflow)] ドロップダウンリストで、[VMPowerEventNotify] を選択します。このトリガーは、[条件を指定します (Specify Conditions)] 画面で定義されているように、モニタ対象の VM のいずれかが [オン (ON)] から [オフ (OFF)] に変化するとワークフローを実行します。 |

次の作業

モニタ対象の VM のオン/オフにして、トリガーをテストします。VM の状態変更が 3 分以上維持されるようにします。トリガーは状態をポーリングするため、ポーリングの時点で変更が確認されなければ（たとえば、3 分の待機間隔の間にオンにされて再びオフにされた場合）、トリガーは起動されません。

サービス リクエストのスケジュール設定

ワークフローが特定の時刻に実行されるようにスケジュールできます。

-
- ステップ 1 [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。
 - ステップ 2 [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[ワークフロー (Workflows)] をクリックします。
 - ステップ 3 [ワークフロー (Workflows)] 画面で、スケジュールするワークフローを選択します。
 - ステップ 4 [スケジュール (Schedule)] をクリックします。
 - ステップ 5 [ワークフローのスケジュール設定 (Schedule Workflow)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

| 名前 | 説明 |
|----------------------------|---|
| 繰り返しタイプ (Recurrence Type) | <p>ワークフローを繰り返し実行するかどうか、繰り返し実行する場合はその頻度を設定します。次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無期限 (No End)] : [頻度のタイプ (Frequency Type)] および [頻度の間隔 (Frequency Interval)] で定義された間隔に従って、[開始時刻 (Start Time)] で設定された時刻から無期限でワークフローが繰り返し実行されます。 • [1 回のみ (Only one)] : [開始時刻 (Start Time)] に設定された時刻に 1 回だけワークフローが実行されます。 • [固定回数 (Fixed Number of Times)] : [頻度のタイプ (Frequency Type)] および [頻度の間隔 (Frequency Interval)] で定義された間隔に従って、[開始時刻 (Start Time)] で設定された時刻から [繰り返し回数 (Repeat Count)] で指定された回数までワークフローが実行されます。 • [繰り返し期限まで (End by Date)] : [頻度のタイプ (Frequency Type)] および [頻度の間隔 (Frequency Interval)] で定義された間隔に従って、[開始時刻 (Start Time)] で設定された時刻から定義された期限までワークフローが実行されます。 |
| 開始時刻 (Start Time) | ワークフローの実行開始時刻 (または一連の繰り返し実行の最初の実行時刻) 。 |
| 頻度のタイプ (Frequency Type) | 繰り返し頻度の間隔単位。[毎時 (hourly)]、[毎日 (daily)]、[毎週 (weekly)]、または [毎月 (monthly)] のいずれかを選択します。 |
| 頻度の間隔 (Frequency Interval) | 選択した頻度に対応して、ワークフローを実行する間隔を選択します。たとえば、[頻度の間隔 (Frequency Interval)] を 4 に設定し、[頻度のタイプ (Frequency Type)] を毎日に設定すると、ワークフローは 4 日おきに実行されます。 |
| [ユーザ ID (User ID)] (任意) | ワークフローを実行するユーザ。サービス リクエストは、このユーザ ID のアクセス許可で実行します。 |

- (注) ワークフローに入力を提供する必要があります。スケジュール済みワークフローでは、ユーザー入力は受け入れられません。
- (注) 同じワークフローは、任意の数のワークフロー スケジュールから実行できません。

次の作業

スケジュール済みのワークフローを表示するには、[ワークフローのスケジュール (Workflow Schedules)] をクリックします。

ワークフローのスケジュールを変更するには、[ワークフローのスケジュール (Workflow Schedules)] 画面で、ワークフローを選択して [編集 (Edit)] ボタンをクリックします。[ワークフロー スケジュールの変更 (Modify Workflow Schedule)] 画面が表示されます。前の手順で説明したフィールドを変更します。[ワークフロー スケジュールの変更 (Modify Workflow Schedule)] 画面は、[ワークフローのスケジュール設定 (Schedule Workflow)] 画面と同じです。

例：ワークフロー実行のスケジュール設定

この例では、ワークフローを後で実行するようにスケジュールする方法を説明します。

はじめる前に

例：[ワークフローの作成](#)の説明に従ってサンプル ワークフローを作成します。

- ステップ 1 [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。
- ステップ 2 [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[ワークフロー (Workflows)] をクリックします。
- ステップ 3 [VMPowerCycle] ワークフローを選択します。
- ステップ 4 [スケジュール (Schedule)] をクリックします。
- ステップ 5 [ワークフローのスケジュール設定 (Schedule Workflow)] ダイアログで、次のフィールドに値を入力します。

| 名前 | 説明 |
|---------------------------|---|
| 繰り返しタイプ (Recurrence Type) | [1 回のみ (Only once)] を選択します。実稼働環境のアプリケーションでは、他の値を選択することを推奨します。 |
| 開始時刻 (Start Time) | 今日の日付を選択し、現在時刻より数分後の時刻を設定します。 |
| ID を使用 (Use ID) | サインインする際に使用した管理者 ID を入力します。 |

ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

[ワークフローのスケジュール (Workflow Schedules)] タブをクリックします。スケジュールが設定されたワークフローがリストされます。

[開始時刻 (Start Time)] コントロールで指定した時刻にサービスリクエストキューをオンにします。[サービスリクエストの表示](#)を参照してください。指定したワークフローのサービスリクエストが生成されます。

VM アクションポリシーの使用

仮想データセンター (VDC) に適用するユーザ VM アクションポリシーを作成できます。このポリシーには、VDC 内の VM 上で実行できるワークフローを含めます。



(注) VDC ごとに割り当てることができる VM アクションポリシーは 1 つのみです。

新しい VM アクションポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。

ステップ 2 [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[ユーザの VM アクションポリシー (User VM Action Policy)] をクリックします。

ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 4 [ポリシーの追加 (Add Policy)] の [新しいポリシーの作成 (Create New Policy)] 画面で、次のフィールドに入力します。

| 名前 | 説明 |
|-----------------------------------|--|
| ポリシー名 (Policy Name) | ポリシー名。 |
| ポリシーの説明 (Policy Description) | ポリシーの説明。 |
| アクションの数を選択 (Select No of Actions) | ポリシーで定義するアクション数。1 つのアクションが単一のワークフローを指定します。 |

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [ポリシーの追加 (Add Policy)] の [VM アクションの追加 (Add VM Actions)] 画面で、各 [VM アクション (VM Action)] の次のフィールドに値を入力します。

| 名前 | 説明 |
|-----------------------------------|--|
| アクション ラベル (Action Label) | VM アクションのラベル。アクションポリシーを適用する仮想データセンター (VDC) に属する VM を選択すると、アクションが有効になります。 |
| ワークフロー (Workflow) | このアクションによって表されるワークフロー。 |
| 認定ユーザ タイプ (Authorized User Types) | ポリシーのワークフローを実行する権限を持つユーザ タイプ。 |

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

管理者としてユーザ VM アクションポリシーを作成した後は、VDC を作成する際にこのポリシーを選択できるようになります。VDC に属するすべての VM が、アクション ポリシーで指定されているワークフローを使用できます。

